

## 【部会・分科会活動報告】 2018年3,4月度

食 品 安 全 研 究 会	食品微生物研究部会	<p>1. 分科会活動</p> <p>(1) 芽胞菌研究分科会：進捗なし。</p> <p>(2) MALDI-TOF MS 研究分科会 6/20 島津製作所本社にて微生物同定講習会を開催予定。 講師：NITE/NBRC、島津製作所</p> <p>(3) チルド勉強会 6/8 ILSI Japan 会議室にて勉強会および打ち合わせの予定。</p> <p>(4) 検査法標準化プロジェクト：進捗なし。</p> <p>(5) NGS プロジェクト ・最終原稿が完成した。プロジェクトメンバーで参集し、東京海洋大学にて木村凡先生より報告会を実施予定。(5/31)</p> <p>2. 2018年度 第2回部会全体会議 予定 (5/22) 不二製油 (株) 阪南事業所で開催予定。 勉強会：神戸大 石川周先生、元東洋食品研究所 青山好男先生に講師をお願いしている。</p>
	食品リスク研究部会	<p>1. ワーキンググループ活動</p> <p>・食品リスク評価新技術勉強会 (WG2) :</p> <p>① ILSI Europe との動物実験代替推進に向けた協働：EUROTOX 直後の 9/6, 7、Brussel にて開催される WORKSHOP に国衛研から3名、ILSI Japan から3名をエントリーした。これに先立ち、食品分野のガイドラインが求める動物実験についてのまとめを ILSI Europe に提出予定。</p> <p>② 独立行政法人製品評価技術基盤機構 (NITE) との 카테고리アプローチに関する意見交換会 (5/18) にむけ評価化合物を事前提出した。</p> <p>・食品リスク評価課題解決 (WG3) :</p> <p>① 高齢者が摂取する食品の安全性評価：本テーマの進め方について、中江大理事に相談、その結果を受け、高齢者の定義明確化を目的とする専門家を困んだ勉強会、食安委評価書からの情報収集や医薬品の事例抽出の可能性を検討することとなった。勉強会には老年医学専門家の桜美林大学鈴木隆雄先生を招聘予定。</p> <p>② GEMS FOOD データベース：国立健康栄養研国際栄養情報センター長 西信雄先生を訪問しデータベースの活用についてヒアリング予定。</p> <p>2. 2018年度第1回部会会議を開催した (4/27) 協和発酵バイオ東京支店にて開催。20名参加。 ・WG2、WG3 進捗報告 ・新メンバー紹介</p> <p>3. 勉強会開催 (4/27) 協和発酵バイオ東京支店にて開催。22名参加。 ・演題：化学物質の有害性評価のための in silico 評価技術の現状と活用推進へ向けた課題 ・講師：国立医薬品食品衛生研究所、山田隆志先生 内容：TTC、(Q)SAR、カテゴリアプローチの基礎から最近の話題まで</p>

	香料研究部会	
	バイオテクノロジー研究会	<p>1. 2018年度 第2回目会議を4月11日に開催</p> <p>(1) ERA プロジェクト調査報告 第38号の勉強会： ・ 10報の論文をレビューし、意見交換を行った。</p> <p>(2) GM 微生物食品について： ・ 進捗報告なし。</p> <p>(3) GM 作物について： ・ 生物多様性影響評価に関する勉強会（4月25日開催） フクラシア丸の内オアゾで開催。産官学一般計59名参加。 2016年 ILSI ERA 勉強会の振り返り、日本における遺伝子組換え作物の生物多様性影響評価の考え方（佐藤忍先生 筑波大）、隔離ほ場試験のデータトランスポータビリティの考え方と現状（大澤良先生 筑波大）、2016年 ILSI ERA 勉強会の振り返り（雑草の特徴について）（黒川俊二先生 農研機構）</p> <p>・ 2017年12月15日の「遺伝子組換え食品等の安全性評価における次世代シーケンサーの活用に関する勉強会」 開催結果報告は発表者である齋藤先生より「イルシー」誌へ投稿いただくこととなった。</p> <p>・ 「日本におけるGM作物のERAの歴史」 これまでのERAの歴史を整理することを目的に執筆いただくことが林先生ご本人からも承諾された。12月の第41号ERA報告書と同梱し送付できるよう準備開始。</p>
栄養健康研究会	栄養研究部会	<p>2018年度の第1回部会を開催した（3月16日）。</p> <p>1. 下記テーマの『第9回ライフサイエンスシンポジウム』開催に向け、進捗状況について情報を共有した。 ・ テーマ：「健康長寿の延伸につなげる栄養科学と運動科学の融合—基礎研究から応用研究まで—」。 ・ 開催日：2018年7月26日（木）（終日） ・ 場所：東京大学弥生講堂一条ホール</p> <p>2. ILSI Japan のホームページに『第9回ライフサイエンスシンポジウム』の開催案内を掲載。（4月） <a href="http://www.ilsijapan.org/ILSIJapan/LEC/LifeScience/LifeScience2018.php">http://www.ilsijapan.org/ILSIJapan/LEC/LifeScience/LifeScience2018.php</a></p> <p>3. 第8回「栄養とエイジング」国際会議（2019年10月）に向けて ・ 栄養研究部会からは、篠田（森永乳業株式会社）と三井（花王株式会社）の2名がプログラム委員会に参加することになった。</p>
	GRプロジェクト	第3回多施設試験追試
	茶類研究部会・茶情報分科会	
	食品機能性研究会	
	寄付講座 「機能性食品ゲノミクス」	・ 第Ⅲ期寄付講座（2013年12月開始、5年間）研究進行中。
健康な食	ワーキンググループ1（WG1） 科学的エビデンスに基づく日本人にとっての健康な食事の概念構築	・ 第7回会合（3/8）東京大学佐々木研究室 日本食のエビデンス調査として進めている包含基準と除外基準に照らし合わせ、抽出した146報の分類を行っている。「日本食の定義」について、定義の有無、引用文献の有無の基準を設け、再検

事 研 究 会		<p>討を宿題とした。          &lt;今後の進め方について&gt;「日本食の定義」についての調査結果として今後まとめる予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第8回会合(4/10) 東京大学佐々木研究室           <ol style="list-style-type: none"> <li>①「日本食の定義」の調査について解釈の見解に不一致があるものについて再検討を実施</li> <li>② 報告書「日本食の定義」の調査のまとめ</li> <li>③ 5/17 全体会議の報告内容</li> </ol> </li> <li>今後の予定 第9回健康な食事研究会 WG1            日時・場所：6/7 木 15:30-17:30 東京大学佐々木研究室            宿題：報告書作成に関わる質問項目への回答</li> </ul>
	<p>ワーキンググループ2 (WG2)          外食・中食・給食の実態把握</p>	<p>第1回拡大事務局会(3/15)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第2回 WG2 ミーティングの振り返り</li> <li>追加ラウンドテーブルの方向性</li> <li>「中食」の企業調査の方向性</li> </ul> <p>第3回 WG2 ミーティング(4/20) ILSI Japan 会議室</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>健康な食事に関する情報提供、宅配食は5日間でカロリー塩分バランスを設定。学校給食は「学校給食摂取基準」により1週間でバランスを設定。微量栄養素は、30日が目安。</li> <li>5月7日に厚労省が宅配食の協会を設置予定。</li> <li>「中食」「ファストフード」の定義</li> <li>生活者/消費者の食事・栄養摂取実態に関する文献調査の報告            文献や調査報告書を紹介。「国民健康・栄養調査」データから外食・中食・給食別の摂取カロリー、栄養素量が算出可能か検討。内食/中食の区別ができず、算出は不可能であった。</li> <li>今後の活動について           <ul style="list-style-type: none"> <li>ラウンドテーブル(6~7月) 候補：日本べんとう振興協会、日本惣菜協会等</li> <li>企業インタビュー(下期開始) ① 質問内容を纏める、② 倫理委員会への申請、③ WG2 調査員の宣誓書、相手への覚書の準備(目的、情報の取扱法を明記する)</li> </ul> </li> </ul>
	<p>ワーキンググループ3 (WG3)          健康な食事の伝え方開発と社会実装による効果検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>会合(3/19) ILSI Japan 会議室</li> <li>会合(4/20) ILSI Japan 会議室</li> <li>花王(株)より、「スマート和食®」の社会実装に向けた取組み内容や、留意・工夫点、得られた気づき等を紹介された。</li> <li>今後は、ラウンドテーブルを実施し、その成功要因や失敗要因の類型化を図ることとした。</li> <li>類型化を行うためのフレームワークを作成し、今後はそれをベースにラウンドテーブルを実施する。</li> </ul>
	研究会全体	<p>○ 全体会議予定          5月17日(木) 15:00~17:00 ILSI Japan 会議室</p>
C H P	<p>Project PAN          (Physical Activity and Nutrition)</p>	<p>3/1~2 津和野町複合交流拠点施設実証実験(日原賑わい創出拠点(仮)プレオープンイベント)：「テイクテン~介護予防も楽しんで学べます！」テイクテン教室3回実施(島根県)          3/2 テイクテンリーダー講習会(日原賑わい創出拠点(仮)、島根県)          3/5, 19 区内地域ケアプラザ・都筑区社会福祉協議会主催 「食べて動いて健康づくり~TAKE10!~講座」(第3回)(第4回)(横浜市都筑地区センター)</p>

	3/6 石垣プロジェクト結果報告会（綱町三井倶楽部、港区） 4/19 自主サークルスカイテイクテン（押上オレンジルーム、墨田区）
Project SWAN （Safe Water and Nutrition）	4月；紙芝居式教材の解説ビデオを2本作製（① 栄養と食品衛生、② 安全な水と衛生環境）。NINのホームページへの掲載、栄養イベントの際に上映する等、広く活用する。
Project IDEA （Iron Deficiency Elimination Action）	特になし
CHP 全体	特になし
国際協力委員会	<p><b>部会開催：3月2日（金）—4月5日（木）随時</b></p> <p><b>【議題①】</b> 2018年のBeSeTo会議（ホスト国：台湾）に先立ち開催されるサテライトシンポジウムの話題候補</p> <p><b>【議題②】</b> 同BeSeTo会議において、昨年のBeSeTo会議で提案した「新たな枠組み」として「参加支部間で共有したい話題」の候補 全員で集っての会議は実施せずに、上記2つの議題に関し委員間でメールでの意見募集と議論を行い、それぞれ日本としての意見をまとめて事務局よりILSI台湾に連絡した。</p> <p><b>【日本の意見提出】</b> 議題①に関しては、3月26日（月）に意見が集約された以下3案を提出</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) Dietary Intakes Survey or Food Composition Database（摂取量（暴露量）評価や食品成分データベース）</li> <li>2) Reduction of salts/sugars intake strategy/campaign, with reference to WHO Recommendations (There are many traditional foods containing much salt in Asia. It might be better to discuss the issue considering potassium salt as well.) （糖類や塩分摂取の削減に関するWHOの勧告に基づく各国での戦略やキャンペーン活動）</li> <li>3) Front of Package – practice in Asian countries（FOP：製品に含まれる栄養素に関してパッケージ正面に表示される様々な記号の取組のアジア諸国の実践例）</li> </ol> <p>議題②に関しては、候補を1つに絞り4月5日（木）に以下を提出 “Issues and policies on nutrition of each country”（栄養に関する各国の課題と政策）</p> <p><b>【ホスト国よりのフィードバックおよび日本の対応】</b> 議題①のサテライトシンポジウムの話題は、以下に決定。 "The practical implementation of food microbiological criteria by regulatory authorities with focus on the sampling plan and risk management." これを受けて、日本で事務局を中心に演者の選定を開始。 議題②に関しては、「新たな枠組み」は取り入れない旨通知があった。これを受けて、日本からは、参加支部が増えたことと時間的制約を鑑み了承した旨を返信した。</p> <p><b>【今後の予定】</b> サテライトシンポジウムの演者の選定を進めることと、BeSeTo会</p>

	議での今年の日本からの発表内容およびプレゼンターの選定を行う。
情報委員会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 委員会開催 2 回 (3, 4 月)</li> <li>2. ホームページ <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常業務としての更新 (随時)</li> </ul> </li> <li>3. 「栄養学レビュー」誌 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 26 巻 3 号 (通巻 100 号) : 監修・編集 (5/10 刊行予定)</li> <li>・ 26 巻 4 号 (通巻 101 号) : 翻訳・監修 (8/10 刊行予定)</li> </ul> </li> </ol>
編集部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「イルシー」誌 134 号原稿編集 (5 月刊行予定)</li> <li>・ 「イルシー」誌 135-137 号原稿依頼検討</li> </ul>

## 【講演会・シンポジウムご案内】

講演会名	案内	担当研究部会
第 9 回ライフサイエンスシンポジウム	<p>「健康長寿の延伸につなげる栄養科学と運動科学の融合—基礎研究から応用研究まで—」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開催日：2018 年 7 月 26 日 (木) 9:00—17:45</li> <li>・ 場所：東京大学弥生講堂一条ホール</li> </ul>	栄養研究部会

## 【事務局からのお知らせ】

理事会	<p>○第 3 回理事会が、平成 30 年 4 月 27 日 (金) に開催された。</p> <p>&lt;決議事項&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Scientific Integrity Principles 採択 「食品科学と栄養研究への資金拠出に関する原則」を採択した。ILSI Japan メンバーすべてが順守することが求められる。</li> <li>2. イルシー誌在庫処分 災害時備蓄食料の保管場所がなく 10 冊ずつ残し、廃棄することを提案した。損益への影響は、2.5 百万円。質疑応答の末、承認された。</li> </ol> <p>&lt;討議事項&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究会活動の活性化 <ol style="list-style-type: none"> <li>ア) 健康な食事研究会状況報告 2 月 19 日に日本橋公会堂にて研究会発足から 1 年後の成果を各ワーキンググループより報告。同時に栄養改善学会の取組み、「健康な食事・食環境認証制度 (スマートミール)」の紹介を行った。また各 WG の 3 月、4 月に開催した会議内容の報告をした。</li> <li>イ) 寄付講座の今後について 来年の 3 月末にて第Ⅲ期が終了する。総括シンポジウムを本年 9 月 18 日に開催予定。開催時の構想と成果を整理して、歴史を冷静に振り返ること。個々のテーマと寄付講座のつながりを明確にする予定。</li> <li>ウ) 動物試験代替タスクフォース 国立医薬品食品衛生研究所との協働を取り付けたこと、食品リスク研究部会にて日本の法規情報を整理し 6 月末までに ILSI Europe に提出すること等を報告。</li> <li>エ) 栄養とエイジング国際会議準備 開催予定日は 2019 年 10 月 1~2 日、予定会場は東京大学農学部弥生講堂一条ホール。プログラム委員会初の会議を行い、全体のコンセプトや議論内容を説明した。それを整理して理事に書面</li> </ol> </li> </ol>
-----	---

	<p>で配付し、7月の理事会では、意見をいただき最終とする。その前に過去の予実算の実績等、データを整理して、組織委員会を開催する。そこで下部の委員会（プログラム以外の財務、広報、レセプション、総務）を決める予定。近日中に開催。</p> <p>オ) BeSeTo 会議の計画  日程は、今年9月13～14日、場所は、台北にて。サテライトシンポジウムのテーマ、構成については意見を提出済み。スピーカーの選定を急ぐ必要あり。会議のプログラム枠組みは、従来と同じで、ILSI Japan からの発表候補に、NGS、MALDI/TOFMS、「日本くすりと食品機能フォーラム」を入れる方向で検討中。</p> <p>カ) 研究会・研究部会への活動支援スケジュール  昨年引き続き、研究会・研究部会への資金支援行う。今年の日程を説明した。</p> <p>2. 本部関連報告・総会時の Scientific Program  今年は北米と RF が開催したが、来年以降、ILSI 全体で開催し、オープンシンポジウムとする。来年の6つのセッションのうち、3つを北米以外の支部が担当。全体のテーマは“<b>Brave New World in Nutrition &amp; Food Safety</b>”。エントリー募集があり、ILSI Japan から“<b>Technologies for Improving Accuracy of Dietary and Physical Activity Assessment</b>”を案として提出した。</p>
事務局	<p>4月より、キリン(株)OBの横向慶子氏が事務局次長として就任、「栄養とエイジング国際会議」、「健康な食事研究会」を担当。同じく花王(株)より中村英世氏が事務局次長に就任、本部のガバナンス強化対応、支部交流業務を担当。</p>